

## 調査の進め方・報告書のまとめ方の項目（未定稿、第6回2011年6月11日講義用）

- 1．文献調査（サーベイ調査）
- 2．現地踏査
- 3．ヒアリング調査
- 4．アンケート調査、実態調査
- 5．調査委員会、計画策定委員会、中間報告
- 6．報告書作成

### 1．文献調査、サーベイ調査

#### （1）入手

誰でも見て置かなくてはならないもの

知られていない文献の探索と入手

ポイントとなる資料（ヒアリングでも、アンケートでも同じこと）を見つけたら、それをめぐって論旨を組み立てる

例：ペリエリアブランド創出調査 文献一覧 6．報告書作成参照  
ポイント文献 章立て、表（第3章 3/36）

#### （種類）

- ・過去の論文、報告書
- ・書籍
- ・新聞・雑誌
- ・統計書（官庁統計、団体統計 - 加盟社からの情報 -、意識調査）
- ・地図、図面、写真（画像）

#### （探索方法、入手場所）

- ・調査依頼先（クライアント）
- ・図書館（大学図書館、公共図書館、省庁図書館、団体図書館、OECD 東京センター図書室）  
省庁図書館：厚生労働省がおすすめ（農水省、経産省、国交省、内閣府は経験済み）
- ・書店、古本屋
- ・書籍関連サイト：amazon、「日本の古本屋」等（また、ここから図書館へ）
- ・現地（地方調査、海外調査ではこれが重要）  
現地でしか入手できない重要資料を見つければ調査は成功  
（例：バングラ調査、淡路島たまねぎ）
- ・ウェブ タイ地域資料の例：巻末参考資料

- ・ヒアリング先に教えてもらう（「その点についてまとめた資料はありませんか？」）
- ・ヒアリング相手が参照している資料を問いつめる（バングラ NGO 調査の例）

#### （入手方法）

- ・買う、もらう
- ・借りる（コピー、スキャンして返す）
- ・ダウンロード
- ・コピー、スキャン、デジカメ撮影

#### （資料請求）

- ・欲しい資料の一覧表をつくっておく（場合によっては事前に渡しておく）  
例：稲城市総合計画資料一覧（第4回資料）ただしこれは預かった資料一覧

#### （2）読み込み、整理

- ・通読、拾い読み、まえがきや後ろ書きは必須
- ・抜き書き、箇条書き
- ・カード化
- ・内容を表で整理  
例：バイエリア調査 第2章 3/26、第3章 27/36
- ・年表づくり

#### （3）データ整理 - 講義のトピックスで逐次紹介 -

- ・統計解析
- ・グラフづくり
- ・表の再整理

## 2．現地踏査

#### （1）踏査方法

- ・自分で回る（徒歩、自転車、自動車、電車、運転手を雇う）
- ・現地の人に連れていってもらおう
- ・ヒアリングのときに、現地を見せてもらう（地域、農地、工場、調査現地担当者）

#### （2）写真撮影

- ・報告書に使う場合と単なる記録用  
例：バイエリア調査 第2章 5/26

- ・使うかどうか分からなくても取っておく。記念も兼ね（デジカメ時代）
- ・文献、展示物等の撮影
- ・ネット上にある写真も著作権があって使えない場合があるので自分で撮る（許可を得るのも大変）

### （３）その他

- ・精通者やヒアリング先を見つける
- ・地元の本屋や図書館、資料館などを回る
- ・ついでに観光もする  
 地元で食事する（地元の人においしい所をきく。連れていってもらう 例：マレーシアインド料理屋）

## ３．ヒアリング調査

### （１）ヒアリングの種類

#### 個別ヒアリング

企業（本社、工場） 農家、市民、  
 行政担当者（首長、企画課（総務課） 各課、公共施設、教育委員会）

#### グループヒアリング

#### 有識者ヒアリング

### （２）ヒアリングの方法

アポどり（自分で電話、知悉者に依頼）

場所：先方に出掛ける、ヒアリングする場所に来てもらう

調査票の用意（特に複数人で調査する場合）

調査項目だけ

細かい聴取内容、数字、地図（農地配置）

調書への記入依頼（ヒアリングに先立って実施。 - 計画策定調査の場合 - ）

巻末「参考資料」に市町村総合計画の調書の例

権威づけ

紹介、学術目的、公共目的（市長名など）

ヒアリング先への配慮

秘密保持、おみやげ、公共目的、調査内容のフィードバック、情報提供（バーター）

通訳

すぐれた通訳ならこちらの意図を理解して自発的に聞いてくれる

高度テクニック

外で聞いたこと、前にヒアリングした相手の情報が本当か聞く

#### 4 . アンケート調査、実態調査

##### ( 1 ) 母集団とヒアリング対象 ( 科学的根拠は社会調査の教科書参照 )

###### 対象

- ・ 住民 - 母集団全住民、20 歳以上住民
- ・ 通勤者アンケート、児童・生徒アンケート等々
- ・ 有識者アンケート
- ・ 企業アンケート 代表者 ( 社長 )、人事担当者、企画担当者、全職員名簿
- ・ 住民基本台帳
- ・ 企業名簿 会社四季報、帝国データバンク
- ・ その他の名簿

###### 抽出法

- ・ 意図的抽出
- ・ 無作為抽出 ( ランダムサンプリング、任意抽出 ) ( N H K 日韓市民意識調査の例 : 巻末 )

###### サンプル数

- ・ 全数調査 ( 悉皆調査 ) とサンプル調査 それぞれ得失あり

##### ( 2 ) 実査

- ・ 配布回収方法 ( 郵送配布郵送回収、訪問調査、留め置き回収 )
- ・ 紙の調査票を配布回収、WEB ベース
- ・ 無記名調査と記名調査
- ・ 回収数、回収率
- ・ 期間 ( 普通土日を 2 回挟んだ 2 週間 )
- ・ 督促、お礼

##### ( 3 ) 調査票 ( 例 : 稲城市農業者アンケート - 別添 )

- ・ 回答方式 - 択一回答と複数回答 ( すべて、限定数複数回答 )
- ・ 回答方式 - 紙ベース : 付け方式、枠に数字記入方式 ( 限定数複数回答の場合有効、ただし選択肢番号を間違えると大変なことになる )
- ・ 回答方式 - ホームページでクリック方式 ( 各種のしぼりが可能 - 限定数複数回答、回答しないと前に進めないように出来る - 無回答が原則なくなる )
- ・ 評価点 ( 建設業 N 社のコンプライアンス調査の例 : 巻末参考資料 )

##### ( 4 ) 打ち込み、集計

- ・ エクセル、専用ソフト
- ・ 集計会社委託
- ・ グラフ

#### ( 5 ) 報告書

##### ・ 調査の概要に記す必須項目

調査の趣旨、 調査名、 対象者、 調査日時・期間、 配布回収方法、 抽出方法、  
標本数・回収数

##### ・ 単純集計結果、クロス集計結果、集計表・グラフ

##### ・ 分析（単純な記述、数量解析、調査本文の中での分析）

#### ( 5 ) その他

##### ・ 他のアンケート調査に便乗

#### 5 . 調査委員会、計画策定委員会、中間報告

##### ・ 第二次稲城市農業基本計画の例（別添資料）

#### 6 . 報告書作成

#### ( 1 ) 論文、報告書の体裁

体裁にかかわる細かい点は小笠原（2009）参照

#### ( 2 ) 注釈、引用、参考の記載方法

##### ・ 「従来型」と「近年型」（参考資料「ベイエリア調査」の例）

#### ( 3 ) 表で整理

##### ・ 内容を表で整理

例：ベイエリア調査 第2章 3/26、第3章 3/36

##### ・ 場合によっては結論を表で整理（例：国内NGO調査）

#### 【参考文献】

##### ・ 小笠原喜康（2009）「新版 大学生のためのレポート・論文術」講談社現代新書

# 日韓をめぐる現在・過去・未来

～日韓市民意識調査から～

世論調査部（社会調査） 河野 啓 / 原美和子

## はじめに

2010年8月に日本が韓国を併合して100年となった(表1)。NHKと韓国の公共放送のKBSで共同の世論調査を同じ質問項目、同じ調査方法で行い、日韓両国の調査結果を比較分析し、広く両国民に伝えることを目的に調査を実施した。調査項目は、家族観、生活上の心配、生きがいなど基本的な生活態度、相手国の大衆文化接触度、お互いの国に対してどのような意識を持っているのか、日韓関係の今後などである。

NHKとKBSが共同で世論調査を実施するのは、初めてである。NHK、KBSとも報道や番組制作を含めたチームを形成し、会議やメールで意見交換を重ね、調査方法、調査日程、調査内容、公表日など、合意の上で調査を実施した。この調査結果は、KBS、NHKでそれぞれ、ニュース、討論番組、解説番組などで活用された。

ここでは、まず、サンプリング方法など調査の概要を報告する。その上で、調査結果をもとに、両国の人びとの生活、社会意識、ついで、相手国に対する見方について分析する。

なお、NHKでは、1991年、1999年に日本と韓国を対象とした面接調査を実施してきてい

る<sup>1)</sup>。今回の調査には、できる限りそれらの調査の質問を取り入れているので、今回と共通する質問については、それらの調査結果も紹介していくこととする。

表1 年表

年	内容
1905	日本：韓国を保護国化
1909	伊藤博文、アン・ジュングン（安重根）により射殺
1910	日本による韓国併合
1945	第2次世界大戦終了、朝鮮光復（解放）
1948	大韓民国樹立、イ・スンマン（李承晩）政権発足 北朝鮮樹立、キム・イルソン（金日成）総書記就任
1950	朝鮮戦争勃発
1951	サンフランシスコ平和条約
1953	朝鮮戦争休戦
1965	日韓基本条約締結（日韓国交正常化）
1973	キム・ダジュン（金大中）拉致事件
1980	光州事件
1984	チョン・ドファン（全斗煥）大統領訪日 昭和天皇、「不幸な過去」遺憾と発言
1987	韓国：全国38市郡で大規模デモ（民主抗争） 大韓航空機墜落事件
1988	ソウル五輪開催
1991	従軍慰安婦と名乗り出、日本政府を提訴
1993	北朝鮮、核開発疑惑浮上 韓国：日本人の観光ビザ免除
1995	村山首相談話（韓国地支配への反省とお詫びの表明）
1997	韓国：金融危機 北朝鮮キム・ジョンイル（金正日）総書記就任 キム・ダジュン（金大中）政権発足
1998	日本大衆文化の段階的開放措置（～2004第4次）
1999	日本映画「Love Letter」韓国公開
2000	韓国映画「シユリ」日本公開 南北首脳会談
2001	「新しい歴史教科書」検定合格に韓国反発 小泉首相訪韓 神社参拝
2002	日韓共催 W 杯 小泉首相訪朝、金正日総書記「日本人拉致」謝罪
2003	「冬のソナタ」日本のBSで放送 韓流ブーム
2004	韓国：地上波での日本映画、CATVでの日本のドラマ放映が可能
2005	島根県「竹島の日」制定 日本：韓国人の観光ビザ免除
2008	イ・ミョンバク（李明博）政権発足
2009	日本：民主党政権発足
2010	韓国暗殺懸念沈没事件（3月26日）

## 調査の概要

調査時期、調査方法、調査対象は両国とも同じであるが、調査相手の抽出については、異なっている(表2)。日本のサンプリングは住民基本台帳から個人を抽出しているが、韓国では、住民基本台帳や名簿を使うことができない。かつては、韓国でも班(韓国の伝統的な地域単位)や村で管理している世帯名簿を閲覧できたが、現在は不可能である。

そこで、韓国ではどのようなサンプリングがなされたかみておく。

調査相手の抽出方法は、比例割当系統抽出によるランダムウォークサンプリングである。国民全体の比率を反映するため、あらかじめ、国勢調査により、地域/性/年齢別の割当数を定めておいた。

第1段階の調査地点の抽出では最大の行政ユニットである特別市と道に、人口数に比例してサンプル数を割り当てた。

第2段階では、最終的なフィールドワークの地点である班や村を系統抽出した。

第3段階では、調査員は、第2段階で抽出した地点を訪問し、その世帯を等間隔に訪問した。

第4段階で、調査員は、世帯の中から20歳以上で、誕生日が一番早く来る人を、調査相手として選んだ。

調査有効数の70%まで調査後、地域ごとに、目標標本設計で不足した性/年齢別該当回答者を探して調査した。

なお、地点を決めるところまでは、層化無作為抽出であるが、調査相手を選択する段階で割り当て法によっているので、ランダムサンプリングとは言えないが、日韓の調査結果の比較にあたっては、ランダムサンプリングとして、差の検定を使用している。

表2 調査の概要

調査時期	2010年6月26日(土)～7月4日(日)	
調査方法	個人面接法	
調査対象	全国20歳以上の国民(韓国は済州島を除く)	
調査相手	日本	住民基本台帳から層化無作為2段抽出 2,400人(12人×200地点)
	韓国	層化3段抽出 (調査相手の抽出は誕生日法、割当法) 1,000人(10人×100地点)
調査有効数(率)	日本	1,473人(61.4%)
	韓国	1,000人

## 1. 生活や社会意識からみる日本と韓国

### (1) 生活目標と市民意識

はじめに、生活目標や市民意識といった基本的な特徴をみていく。

まず日々の生活における目標について、以下の4つから、自分にいちばん近いものを1つ選んでもらった。

- その日その日を、自由に楽しく過ごす(快志向)
- しっかりと計画をたてて、豊かな生活を築く(利志向)
- 身近な人たちと、なごやかな毎日を送る(愛志向)
- みんなと力を合わせて、世の中をよくする(正志向)

この4つは、①現在に重点をおくのか、それとも未来におくのか、②自己に重点をおくのか、それとも他者に重点をおくのか、という2軸によって4つの価値観を類型化し、この価値類型に対応する目標として具体化したものである<sup>2)</sup>。

日本で最も多いのが「愛志向」で43%、韓国は、「快志向」(36%)と、「利志向」(37%)が拮抗し、「愛志向」は日本の半分程度である。「正志向」はどちらの国も6%と少ない(図1)。

さらに、前述の2軸の性格によって分類すると、「現在」中心(「快志向」「愛志向」)か、「未来」中心(「利志向」「正志向」)かという点では、日本、韓国ともに「現在」中心の人が多い。一方「自己」本位(「快志向」「利志向」)か「社会」本位(「愛志向」「正志向」)かという点でみると、

参考資料（評価点 - 建設業N社のコンプライアンス調査）

【Q.5】

あなたの職場では、社内の規則に違反しても注意されない雰囲気がありますか。

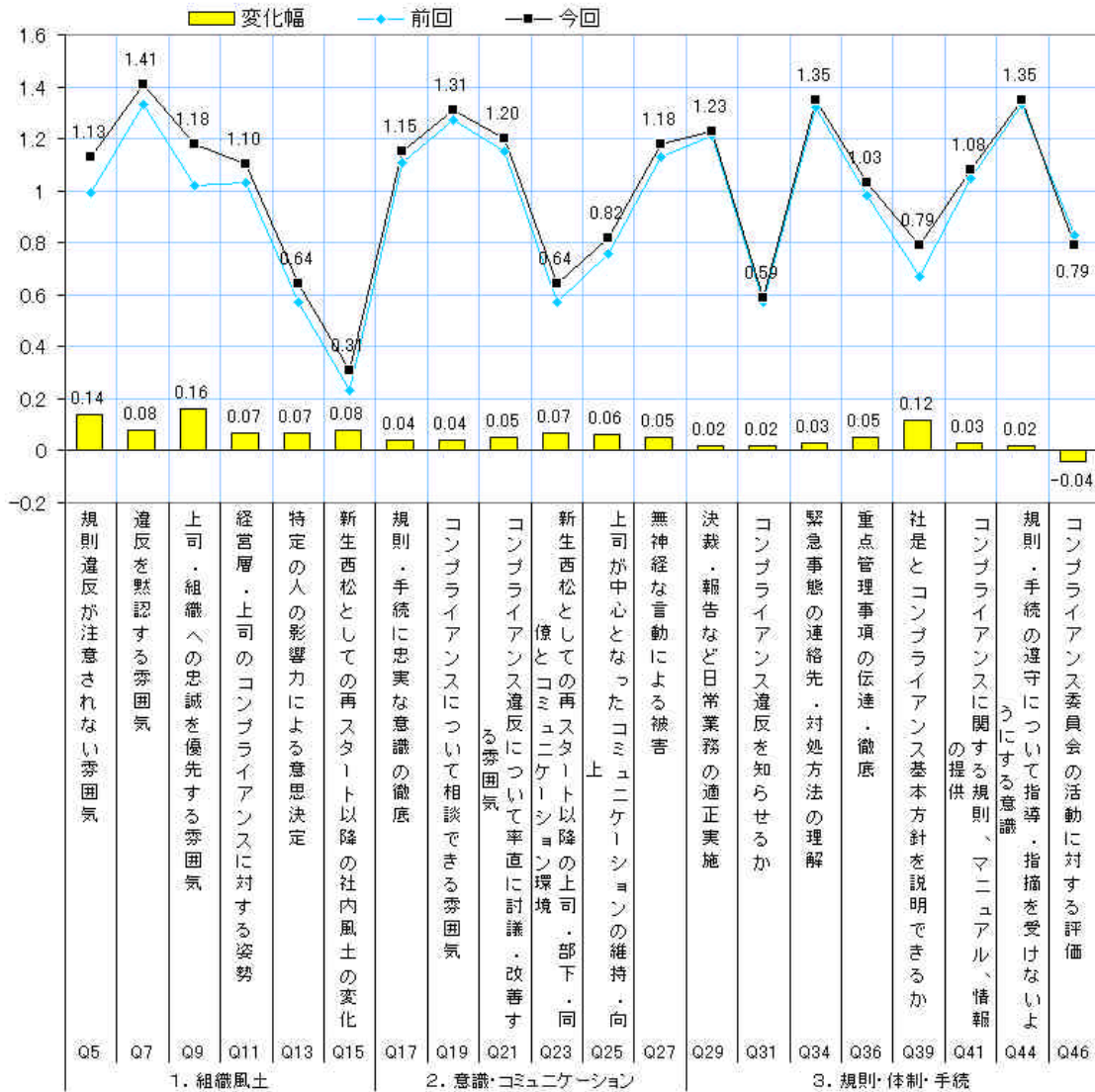
- ほとんどない
- どちらかといえばない
- どちらかといえばある
- いつもある

【Q.11】

あなたの職場では、コンプライアンスのために仕事を予定通りに進められない場合、経営層や上司がコンプライアンスを優先もしくは重視して判断・決定すると思いますか。

- 必ず重視すると思う
- どちらかという重視すると思う
- どちらかという重視しないと思う
- ほとんど重視しないと思う

コンプライアンス意識の評価点の変化



- ・各側面のコンプライアンス意識は概して上昇しており、低下したのは1設問のみである。
- ・コンプライアンス委員会の活動について継続的に高水準を維持するには工夫が必要である。
- ・上昇幅が大きかったのはQ5、Q9、Q39である。
- ・組織風土面での改善が最も大きくなっており、意識・コミュニケーション面はこれに次いでいる。
- ・規則・体制・手続面では、各課題で改善のバラツキが大きいが、他方、相対的に低かった項目で改善幅が大きくなっており、弱い環の改善という形になっている。